



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)特別養護老人ホームノテ石山	階数	7
建設地	南区石山1条6丁目323-1、-3、-7	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域、第一種低層住居専用地域	平均居住人員	129 人
建物用途	病院	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
竣工年	2023年8月 予定	評価の段階	実施設計段階評価
敷地面積	5,224 m ²	評価の実施日	2022年10月28日
建築面積	1,377 m ²	作成者	
延床面積	5,994 m ²	確認日	2022年11月1日
		確認者	

「配慮シート」に外観パースを張り付けて下さい。

2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.5 ★★★★★ A

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆

①参照値 100% (kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 81%

③上記+②以外のオンサイト手法 81%

④上記+オフサイト手法 81%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 一次エネルギー消費量の評価

建物全体の[BEI][BEIm]= 0.77

2-5 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 3.3

Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.3

Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.2

Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア= 3.5

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.7

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.2

LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.1

3 設計上の配慮事項

<p>総合</p> <p>豊平川や豊平川緑地等、市街地に貴重な緑が残る自然豊かな地域ということを考慮し、道路境界線に緑地を設け、外壁色は土や石等、自然と馴染める暖色系の色とし、周辺との調和を意識しました。計画地は国道と市道に挟まれた角地となっておりますので、交差点からの視点を遮らないよう建物位置を道路境界線から後退させた計画となっております。</p>	<p>A 省エネルギー</p> <p>LED照明を使用します。外部窓のアルミサッシは複層ガラスとし、居室・居間食堂は内側に樹脂サッシ(単板)を設置し、空調負担を低減させます。</p>
<p>B 省資源等</p> <p>節水型便器の採用します。界壁にはLGSを使用し、将来の転用・リサイクル性に配慮しています。</p>	<p>C 緑化</p> <p>角地と駐車場出入りに高木を設置してシンボルツリーとし、既存樹木と新規樹木による緑化を行います。</p>
	<p>D 雪処理</p> <p>敷地内に堆雪場を設け、傾斜路にはロードヒーティングを敷設し、敷地外へ排雪はしないように計画しています。</p>

4 ほかの認証・評価制度の利用

(財)建築環境・省エネルギー機構のCASBEE認証	なし	BELS認証	なし	LEED認証	なし
上記以外の認証・評価制度の利用					

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

CASBEE札幌2016 (ver.1.4)
 (仮称)特別養護老人ホームノテ石山

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0
 ■評価ソフト: CASBEE札幌2016 (ver.1.4)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点評価項目	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								3.3
Q1 室内環境					0.40		-	3.3
1 音環境				3.0	0.15	3.0	1.00	3.0
1.1 室内騒音レベル				-	-	3.0	0.40	
1.2 遮音				3.0	0.67	3.0	0.40	
1 開口部遮音性能				3.0	1.00	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能				-	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-	3.0	0.20	
1.3 吸音				3.0	0.33	3.0	0.20	
2 温熱環境				3.0	0.35	3.0	1.00	3.0
2.1 室温制御				3.0	0.50	3.0	0.50	
1 室温				-	-	3.0	0.57	
2 外皮性能	省エネ			3.0	0.40	3.0	0.43	
3 ゾーン別制御性				3.0	0.60		-	
2.2 湿度制御				3.0	0.20	3.0	0.20	
2.3 空調方式				3.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境				3.3	0.25	4.1	1.00	3.6
3.1 昼光利用				3.0	0.35	4.2	0.30	
1 昼光率			居室の昼光率2.0%	3.0	0.60	5.0	0.60	
2 方位別開口					-		-	
3 昼光利用設備	省エネ			3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 グレア対策				4.0	0.35	4.0	0.30	
1 昼光制御	省エネ		ブラインド・カーテンとバルコニー底により制御	4.0	1.00	4.0	1.00	
2 映り込み対策					-		-	
3.3 照度				-	-	3.0	0.15	
3.4 照明制御			リモコンで照度を調整	3.0	0.29	5.0	0.25	
4 空気質環境				3.6	0.25	3.8	1.00	3.7
4.1 発生源対策				4.0	0.63	4.0	0.63	
1 化学汚染物質			F☆☆☆☆以上を全面的に使用します。	4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気				3.0	0.38	3.6	0.38	
1 換気量				3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能			居室は全て自然換気1/10以上確保しています。		-	5.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理				-	-		-	
1 CO ₂ の監視					-		-	
2 喫煙の制御				-	-		-	

Q2 サービス性能			0.30	-	-	3.2	
1 機能性			3.7	0.40	4.2	1.00	3.8
1.1 機能性・使いやすさ			4.0	0.40	5.0	0.60	
1	広さ・収納性	個室全て13㎡以上です。		-	5.0	1.00	
2	高度情報通信設備対応			-		-	
3	バリアフリー計画	バリアフリー新法・札幌市ふくしのもちづくり条例の必要項目全てに適合しています。	4.0	1.00		-	
1.2 心理性・快適性			3.0	0.30	3.0	0.40	
1	広さ感・景観 (天井高)			-	3.0	0.50	
2	リフレッシュスペース			-		-	
3	内装計画		3.0	1.00	3.0	0.50	
1.3 維持管理			4.0	0.30		-	
1	維持管理に配慮した設計	内外装共に、防汚性耐久性の高い仕上げ材を採用します。	5.0	0.50		-	
2	維持管理用機能の確保		3.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性			3.0	0.30		-	3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振			3.0	0.50		-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80		-	
2	免震・制震・制振性能		3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数			3.2	0.30		-	
1	躯体材料の耐用年数		3.0	0.20		-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	省資源	3.0	0.20		-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	省資源 清掃等により耐久年度が向上できる材料を使用します。	5.0	0.10		-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	省資源	3.0	0.10		-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	省資源	3.0	0.20		-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	省資源	3.0	0.20		-	
2.4 信頼性			3.0	0.20		-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20		-	
3	電気設備		3.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20		-	
5	通信・情報設備		3.0	0.20		-	

3 対応性・更新性			2.7	0.30	2.6	1.00	2.7
3.1 空間のゆとり			2.2	0.30	2.2	0.50	
1 階高のゆとり			1.0	0.60	1.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ		建物全体壁長さ比0.23、居室壁長さ比0.22	4.0	0.40	4.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40		-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20		-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20		-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10		-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10		-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20		-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.5
1 生物環境の保全と創出	緑化		3.0	0.30		-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮	緑化	建物位置を道路・隣地から後退させ、緑地帯を設け圧迫感を与えない計画とした。	4.0	0.40		-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30		-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	雷処理	1Fに地域交流スペースを設け、地域の賑わいに貢献します。	4.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	省資源 緑化		3.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-		-	3.4
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.7
1 建物外皮の熱負荷抑制	省エネ	高断熱仕様(BPI=0.72)	5.0	0.20		-	5.0
2 自然エネルギー利用	省エネ		3.0	0.10		-	3.0
3 設備システムの高効率化	省エネ	[BEI][BEIm] = 0.77 -	3.6	0.50		-	3.6
4 効率的運用			3.0	0.20		-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00		-	
4.1 モニタリング	省エネ		3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制	省エネ		3.0	0.50		-	
集合住宅の評価				-		-	
4.1 モニタリング	省エネ			-		-	
4.2 運用管理体制	省エネ			-		-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.2
1 水資源保護			3.4	0.20		-	3.4
1.1 節水		節水型便器、擬音装置を採用します。	4.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30		-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.2	0.60		-	3.2
2.1 材料使用量の削減	省資源		3.0	0.13		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	省資源		-	-		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	省資源		3.0	0.25		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	省資源	EVホール等 点字シート	3.0	0.25		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	省資源		3.0	0.13		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	省資源	乾式間仕切り壁の使用により分別可能です。	4.0	0.25		-	

3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用		有害物質を含まない接着剤の選定をしています。	4.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1 消火剤	省資源		-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	省資源		-	-	-	-	
3 冷媒	省資源		3.0	1.00	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮	省資源	ライフサイクルCO2排出率81%	3.7	0.33	-	-	3.7
2 地域環境への配慮			2.7	0.33	-	-	2.7
2.1 大気汚染防止	省資源		3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	省資源 悪化 軽減		2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			4.0	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	省資源		3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制		角地である為、メインの出入り口は混雑する国道側ではなく市道側とします。駐車スペースを多めに取り、建物回りは全て車両の通行が可能なスペースを確保。	5.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制	省資源 雪処理	ゴミ保管スペースは十分な大きさを確保し、衛生面にも配慮した内装・設備になっています。堆雪スペースを確保し、傾斜路にはロードヒーティングを敷設します。	5.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	1.00	-	-	
2 振動			-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			-	-	-	-	
3 日照阻害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		広告物照明を行う予定なし。	4.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	



■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2016(ver.1.4)

1 建物概要		BEE	1.5	BEEランク	A
建物名称	(仮称) 特別養護老人ホームノテ石山				
建物用途	病院				
延床面積	5,993.7 m ²				

2 重点項目への取り組み		レーダーチャート	
地球温暖化対策	最重点項目 省エネルギー	★★★★☆	
	省資源等	★★★★☆	
	緑化	★★★★☆	
	雪処理	★★★★★	
		<p>省エネルギー性能 5.0 4.0 3.0 2.0 1.0 0.0</p> <p>雪処理</p> <p>省資源等への取組</p> <p>緑化への取組</p> <p>★1=スコア(最低点~最高点)20%以下 ★2=スコア(最低点~最高点)20%~40%以下 ★3=スコア(最低点~最高点)40%~60%以下 ★4=スコア(最低点~最高点)60%~80%以下 ★5=スコア(最低点~最高点)80%以上</p>	

3. 重点項目のCASBEEスコア					
A 省エネルギー (最高点 23.9 最低点 6.7)		合計 17.4点 /23.9点			
Q1 温熱環境	スコア	0.8 /1.4	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア	4.0 /4.0
Q1 光・視環境	スコア	1.8 /2.5	LR1 自然エネルギー利用	スコア	1.2 /2.0
			LR1 設備システムの高効率化	スコア	7.2 /10.0
			LR1 効率的運用	スコア	2.4 /4.0
B 省資源等 (最高点 23.5 最低点 7.7)		合計 15.3点 /23.5点			
Q2 耐用性・信頼性	スコア	0.7 /1.1	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア	5.9 /9.0
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.4 /2.3	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア	1.3 /1.7
			LR3 地球温暖化への配慮	スコア	3.7 /5.0
			LR3 地域環境への配慮	スコア	2.3 /4.4
C 緑化 (最高点 15.3 最低点 3.1)		合計 9.9点 /15.3点			
Q3 生物環境の保全と創出	スコア	2.7 /4.5	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.0 /2.5
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア	4.8 /6.0			
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.4 /2.3			
D 雪処理 (最高点 3.0 最低点 0)		合計 3.0点 /3.0点			
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.0 /1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア	2.0 /2.0

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■重点項目の**最高**点は、各評価項目で**レベル5**で評価された場合の点数
 ■重点項目の**最低**点は、各評価項目で**レベル1**で評価された場合の点数